

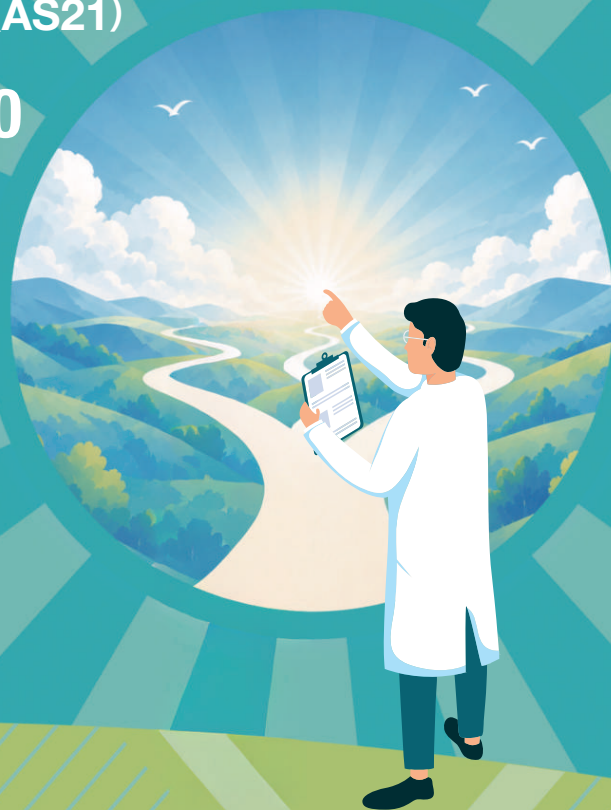
第80回日本臨床眼科学会 アフタヌーンセミナー21 (AS21)

2026年**10月31日**(土) **15:20 ▶ 16:10**

国立京都国際会館1F アネックスホール2 第3会場

広がる 薬剤選択肢

nAMD・RVO症例から考える



座 長

近藤 峰生先生

三重大学



座 長

志村 雅彦先生

東京医科大学
八王子医療センター



網膜静脈閉塞症の治療戦略

～広がる薬剤選択肢～

演 者

長谷川 泰司先生

東京女子医科大学



「続けられる治療」をどう選ぶか

～加齢黄斑変性における医療経済的アプローチ～

演 者

柳 靖雄先生

横浜市立大学



共催：第80回日本臨床眼科学会／日東メディック株式会社



座 長

近藤 峰生先生

三重大学

1991年 金沢大学医学部 卒業
 1992年 名古屋大学眼科 入局
 1997年 名古屋大学大学院医学研究科博士課程 修了
 1999年 米国Michigan大学眼科 留学 (Research Fellow)
 2006年 名古屋大学医学部眼科 准教授
 2011年 三重大学医学部眼科 教授 (現職)
 現在に至る



座 長

志村 雅彦先生

東京医科大学
八王子医療センター

1991年 東北大学医学部 卒業
 1995年 九州大学医学部生理学 国内留学
 1997年 東北大学大学院 卒業
 1998年 ミシガン大学ケロッグ眼研究所 留学
 2003年 東北大学医学部 講師
 NTT東日本東北病院 眼科部長
 2008年 東北大学医学部 臨床准教授
 2012年 東京医科大学八王子医療センター
 教授
 現在に至る

講演

1

網膜静脈閉塞症の治療戦略

～広がる薬剤選択肢～

演 者

長谷川 泰司先生 東京女子医科大学



2006年 福島県立医科大学医学部 卒業
 2008年 福島県立医科大学眼科学講座 入局
 2012年 奈良県立医科大学眼科学講座 助教
 2015年 東京女子医科大学眼科学講座 助教
 2022年 東京女子医科大学眼科学講座 講師
 現在に至る

網膜静脈閉塞症(RVO)に伴う黄斑浮腫の治療は抗血管内皮増殖因子(抗VEGF)療法が主流となり、速やかな浮腫軽減が得られるようになっている。しかし、治療回数の多さや抗VEGF療法に抵抗を示す症例も存在し、治療に苦慮する場面もみられる。治療回数の多さは、医師および患者双方の負担が大きくなるばかりでなく、医療費増大という問題も抱えており、ステロイド局所療法や網膜光凝固を併用することで抗VEGF療法の回数が少なくできないかという試みが国内外で行われてきたが、現時点において治療回数の減少という明確なエビデンスは得られていない。使用可能な抗VEGF薬の種類が増えている中で、2026年から使用可能となったアフリベルセプトBSは先行バイオ医薬品アフリベルセプト2mgのバイオシミラーであり、先行品よりも薬価が安くRVOに伴う黄斑浮腫に対して有用な薬剤と期待される。

今回のセミナーでは、大規模スタディや日常診療からみてきたRVOに対する抗VEGF療法の治療反応性や治療抵抗性の特徴などを整理し、アフリベルセプトBSの活用方法などを述べてみたいと考えている。

講演

2

「続けられる治療」をどう選ぶか

～加齢黄斑変性における医療経済的アプローチ～

演 者

柳 靖雄先生 横浜市立大学



1995年 東京大学医学部医学科 卒業 (MD)
 2012年 東京大学医学部眼科学教室 講師
 2016年 デューク・シンガポール国立大学医学部 准教授
 2018年 旭川医科大学眼科学教室 教授
 2016年-現在 デューク・シンガポール国立大学医学部
 Adjunct Professor
 2020年-現在 横浜市立大学視覚再生外科学 客員教授
 2020年-現在 DeepEyeVision株式会社 取締役
 2025年-現在 ナノ医療イノベーションセンター (iCONM)
 研究員

抗VEGF治療では、臨床効果が近い薬剤間では単回薬価に加え、年間注射回数・投与関連コスト・通院負担が総医療費を左右する。糖尿病黄斑浮腫のコスト最小化解析は、同等有効性下で注射負担の軽いレジメンが費用最小となることが示されている。新生血管加齢黄斑変性においても、費用対効果解析により、典型・PCV・RAP病型別にアフリベルセプトに対しどの薬剤が費用削減となるかの結果が報告されている。本講演ではこれらの知見を整理し、ラニビズマブ・アフリベルセプト・ファリシマブ・ブrolルシズマブ、ラニビズマブバイオシミラー、アフリベルセプトバイオシミラー等のQALY・ICERを試算するMarkovモデルWebツールを紹介する。2026年メタ解析の注射回数を反映した解析を通じ、バイオシミラーの薬価優位と治療延長(T&E)レジメン選択の両面から、「注射回数が薬剤選択を決める」時代における実践的視点を提示する。